

聖書を拝読します。新約聖書 83 ページ、マルコによる福音書 10 章 51 節から 52 節の途中まで

「イエスは『何をしてほしいのか』と問われた。盲人は、『先生、目が見えるようになりたいのです。』と言った。そこでイエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」

おはようございます。今日の担当は国語科の寺本です。

今日が今年度初めての礼拝で、高三のみなさんに向けて話す最後の礼拝です。

つい先日、高三には PS の時間で、平和を構築する者としてこれからどんなことを大切にして生きていきたいかについて書いてもらいました。つづられたどの言葉も素晴らしいものでしたが、何人かが書いていたある言葉が気になりました。それは「信じる」という言葉です。「信じる」ことなくしては、自分も人も好きになれない。平和は語れない、平和への一歩も踏み出せない。なるほど、と感心すると同時に、この言葉は受験生だからこそ出てくる言葉なのかな、とふと思ってしまいました。自分の勉強法を信じる、合格できることを信じる…「信じる」ことの重要性、尊さ、難しさ。受験戦争、という平和とは程遠いこの戦争のただなかにいる高三は痛いほど感じてきたと思うからです。

今日はテスト前ということもあり、私の受験戦争時代を「信じる」というキーワードと共に紹介しようと思います。

まず一つ目の話は私の勉強法についてです。高三の今頃私がしていたのは、自分が使い切ったペンとノートをせっせとため込むことでした。高三のみなさんには話したことがありますが、これは私の勉強法です。決まったボールペンとノートを使ってとにかく書きなぐって勉強する。そして使い切ったペンとノートを捨てずにとっておく。こうすると自分がしてきた勉強量を形として残すことができます。今の時期はとにかく一冊でも一本でも多くため込んでやろうと躍起になっていたものです。いや正しくはこれだけやったんだから…と自分を信じるために躍起になっていたのです。受験当日、このペンやノートの束に励まされたことを覚えています。

二つ目のエピソードは、私の身におこったある事件についてです。私は当時、第一志望の大学のグッズを集めていました。そのなかでもお気に入りだったのは、大学のマスコットキャラクターであるクマ（動物のクマです）のストラップです。ストラップには、ころっとしたぬいぐるみのクマの顔がついていました。高三のみなさんには話したことがあります。覚えてますか？まあ、とにかく当時の私は、験担ぎでいつもそれを持ち歩いていたのです。しかしある時、そのストラップについていたクマの顔が行方不明になったのです。どうやらどこかに落としたりしい…家族は総出になって近所を探し回ってくれました。しかしまったく見つかりませんでした。そんなある日、いつものように学校から帰っていると道に見慣れたものが落ちていました。そう、あのクマの顔です！私はよるこんで取り上げてみると、車に轆かれてしまったのでしょう、かつての丸まるとした顔はどこへやら。ぺちゃんこになってなんというか…たくあんのような…ソラマメのような形になっていました。とりあえず家へもって帰ることとなりました。薄汚れたクマの顔を見た家族はこの奇跡に喜び、「洗ったら？」と言います。手っ取り早く…と思った私は洗濯ネットに入れて洗濯機に放り込んだのでした。洗濯が終わり、ネットをあけてクマを取り出してみると…目の前にあったのはクマではありませんでした。ただのソラマメ状の謎の物体でした。なんと耳、目、鼻など様々なパーツがネットの中でバラバラにちぎれてしまっていたのです。まさにのっぺらぼう状態でした。洗濯機の水流で完全にやられてしまったのでした。この惨状を目の当たりにした私は大号泣。今思えばばかばかしい笑い話なのですが当時のナーバスな受験生にはあまりにもつらかったのです。志望大学のグッズを落としたうえにバラバラに…落ち込む私に家族はまじないのように繰り返していました。「このクマはあなたの代わりに落ちてくれた。あなたの代わりにひどい目にあってくれたんよ…」私はその言葉を信じ、何とか気を取り直してペンを握ったことを覚えています。

クマのことは置いておいても、勉強をする、受験生生活を送るにあたり私はこう思っていました。なんて信じられないこ

とばかり起きるのだろうと。勉強しようと思ったのに気づいたら寝ていた、ちょっとだけと思ってテレビをつけたらいつものまにやら寝る時間。あると思ったプリントがなぜか無い。勉強しようと思ったら机の汚さが気になり、気づけば片付けに二時間。こんなことは序の口。勉強したのに信じられないほど上がらない成績。合格の可能性は何パーセントですという数字に打ちのめされ、ダメの烙印を押された気分になる。でも悪いのは自分。なんで？とどんどん自分が信じられなくなり、挙句嫌いになっていく。一番いやだったのは、友達成功を喜べなくなっている自分がいたこと。本当に自分自身が信じられない思いでした。この嫌な気持ちを原動力に、私はひたすらにペンとノートを貯めこみました。なんのためか。いやになりかけている自分を信じるためです。そして自分の力を過信しないためでもありました。

テストを控えているみなさん。勉強って、しんどいですよね。なんのためにしてるんだろう？って思ったりしますよね。特に高三のみんな。ほんとうに毎日よく頑張っています。しんどいながらもこなしているこの毎日。決して無駄じゃないですよ。元受験生として言います。本当に無駄じゃありません。信じてやりきってください。それは自分を信じるための作業です。そして自分を過信しないための作業でもあります。信じるための根拠を自分で作り上げているのです。自分を信じる心はあるときに、何かを成し遂げようとするときに、爆発的にあなたの背中を押してくれます。やりきったという感覚が、あなたの力になってくれます。今日読んだ聖句の盲人のように。信じる心はあなたを救ってくれるはずです。高三の頃の私はそれを信じ、そして今の私も信じています。自分を信じられるようになる、信じられるようにする。そんな毎日をぜひ送ってください。しんどくても、涙が出そうになっても、嫌な定期テスト、受験には、必ず終わりが用意されているのですから。あとちょっと。自分を信じるために、やっといこうね。応援しています。

お祈りをします、神様、新しい朝をありがとうございます。期末試験を控える生徒たちが、自分を信じられますような行動ができますよう、あなたが強めてください。この感謝と祈りを主の御名によって御前におさげします。アーメン